

骨シンチを用いた非定型大腿骨骨折の後ろ向き調査

1. 研究の対象

2004年3月1日から2016年8月31日までに当院で骨シンチ検査を受けた患者さん

2. 研究目的・方法

近年、非定型大腿骨骨折という概念が確立されています。これは大腿骨骨幹部に生じる骨折ですが通常の骨折とは異なる骨折型を呈します。そして、その多くが骨粗鬆症治療薬であるビスホスホネートを内服している患者さんに生じています。また、稀ではあるが、転移性骨腫瘍の予防的でゾレドロン酸やデノスマブの投与を受けている患者さんにも発生します。今回は、当院における骨シンチを後ろ向きに調査し、非定型大腿骨骨折を疑う所見を有する患者さんがいなかったかどうかを後ろ向きに調査します。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

当院で撮影した骨シンチを評価し、非定型骨折の所見の有無を確認します。所見を認めた患者さんは電子カルテを確認し、ビスホスホネート投与が行われているか確認します。情報の中には患者さんのカルテ番号、年齢が含まれます。

4. 利益相反

研究をするために必要な資金をスポンサーから提供してもらうことにより、その結果の判断に利害が発生し、結果の判断にひずみが起こりかねない状態を利益相反状態と言います。

この研究課題を実施する関係者は下記の如く奨学寄付金を受け入れており、また、旭化成ファーマ（株）からは治験の依頼を受けていますが、利益相反委員会にこの内容を申告し、適正に管理されています。なお、これらの企業の中には川崎医科大学附属病院で使用する骨粗鬆症治療薬を取り扱っている企業が存在しますが本研究とは直接関係がありません。

脊椎・災害整形外科

科研製薬（株）、旭化成ファーマ（株）、エーザイ（株）、大正富山医薬品（株）、中外製薬（株）
ファイザー（株）、第一三共（株）、帝人ファーマ（株）、MSD（株）

放射線医学（核医学）

アステラス製薬（株）、大正富山医薬品（株）、ファイザー（株）

5. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら、下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することができますので、お申し出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の肩にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申し出下さい。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

紹介先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

〒701-0192 倉敷市松島 577 TEL：086-462-1111 FAX：086-464-1175

電子メール：seikei@med.kawasaki-m.ac.jp

川崎医科大学附属病院 整形外科 大成 和寛

研究責任者：

川崎医科大学 脊椎・災害整形外科 講師／川崎医科大学附属病院 整形外科 医長
大成 和寛